

法学A (Law A)					担当教員	
					教授 野崎 亜紀子	
科目群	開講期	授業形態	単位数	必修等		
人と文化	1年次 後期	講義	1.5単位	選択		

【概要】

法的にものを考える能力（法的思考力）は、社会の一員として身につけておかねばならない素養です。特に、専門家や専門職集団には、自分たちの行動について自分たち自身で評価し、あるべき姿勢とは何かを問い、あるべき指針を自分たちで考え、行動する能力が求められます。法学を学ぶということは、細かな法律の知識を知ることではありません。法学Aでは、法的思考とはどのような思考法を取るのか、そしてそれはなぜなのかを、具体的実践的課題とともに考えます。

この授業は全て対面授業で構成する。

【授業の一般目標】

「法とは何か」「なぜ法は社会に存在し、私たちはそれに従わなければならないのか」について、近代・現代法を支える基盤となるものの考え方（リベラリズム）とは何かを法律用語と共に理解し、この考え方や法律用語を適切に用いて、個別具体的に社会に生じる法的問題（時事ニュース等を含む）の解決に向けて論理的に考え、説明できるようになることを目標とします。

【準備学習(予習・復習)】

(1)提示した資料（manaba等で提供します）を読むこと（事前・事後）。(2)課題に取り組むこと。(3)日常の社会問題に関する基本的知識を前提とするため、幅広く社会に起きる事ごとに目配りをする。単位修得のためには日常的な時事的課題への関心（新聞、ニュース等へのアクセス）等による予習、また講義内配付資料、課題への取り組みによる復習、さらには自律的に問題関心を持って課題を見いだす姿勢が必要となります。

上記予習復習を合わせて1週あたり150分程度の学習が必要です。

【学習項目・学生の到達目標】

No	学習項目	担当教員	学生の到達目標
1	「法学A」を学ぶために	野崎	本講義の概要を確認し、講義の基本方針、進め方、取り組み方を理解し、説明できる。
2	国家とは何か（1）	野崎	国家による決めごと（法令）には何故従わなければならないのか。その理由と、私たち個人の選択（自己決定）との関係を理解し、説明できる。
3	国家とは何か（2）	野崎	国家というのは、なぜ、どのように作られる必要があるのか、その理論的理由を理解し、説明できる。
4	国家とは何か（3）	野崎	個人（わたし）の自由は国家の中でどのように保障されるのかを理解し、説明できる。
5	国家とは何か（4）	野崎	自由を守る国家とはどのような国家であり得るのかを理解し、説明できる。
6	国家とは何か（5）	野崎	「自由」とはどのようなことを意味するのか。法が守ろうとする自由の有り様について理解し、説明できる。
7	国家とは何か（6）	野崎	様々に異なる人々で構成される社会の中で、法的思考に基づいた人々が共存するために必要なものの考え方について理解し、説明できる。
8	法の支配（1）	野崎	法はなぜ、どのようにして強制力を持つのかを理解し、説明できる。
9	法の支配（2）	野崎	法と道徳とはどのように違うのかを理解し、説明できる。
10	法の支配（3）	野崎	法の機能とは何か、法の支配の限界問題を理解し、説明できる。
11	法の支配（4）	野崎	憲法とは何か。法と国家の関係について理解し、説明できる。
12	民主主義（1）	野崎	多数決とは何をどのように決めることが、なぜ多数決で決めるのかを理解し、説明できる。
13	民主主義（2）	野崎	民主政の歴史とその問題点を理解し、説明できる。
14	法に従う義務	野崎	なぜ私たちは法に従う「べき」であるのかという問いの意味と、その応答の可能性を理解し、説明できる。
15	総括・まとめ		

（書名）

（著者・編者）

（発行所）

教科書 必要に応じて、提示・配布します。

参考書 はじめて学ぶ法哲学・法思想-古典 竹下・市原他 編
で読み解く21のトピック
問いかける法哲学 瀧川裕英 編著

ミネルヴァ書房、
2010
法律文化社、201
6

【成績評価方法・基準】

講義中に取り組む課題への取り組み（30％）、提出課題状況（10％）、定期試験結果（60％）により総合的に判定します。評価は絶対評価とし、(1)講義内容および(2)十分な事前事後学習を踏まえた課題・試験解答となっているか、この2点を基準とします。

【評価のフィードバック】

講義中に取り組んだ課題については、講義内で講評を行います。また定期試験についての講評は、学内掲示等によって実施します。